

# 紙版 ハコブネ×ブックス 夏の増刊号

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



## パンプキン!

模擬原爆の夏

作者 令丈ヒロ子  
出版社 講談社  
発行 2011年2月  
ISBN 978-4062170772



review



2019年6月に  
青い鳥文庫にも  
収録されました。

特集

## 人気児童文学作家が伝えたい「戦争と平和」



## ガラスの梨

ちいやんの戦争

作者 越水利江子  
出版社 ポプラ社  
発行 2018年7月  
ISBN 978-4591159088



review

QRコードを  
読み込むと  
サイトの  
レビューが  
参照できます。

原爆投下の予行練習として日本全国三十カ所に落とされた**パンプキン**と呼ばれる爆弾は、核物質を搭載していないものの長崎に落とされた原子力爆弾とほぼ同型のものでした。多くの死傷者を出したこの爆弾が、自分の町に落とされていたことを知った現代の小学生ヒロカは、**大量殺戮の予行練習が計画的に行われていた**という史実に仰天します。何故、人はそんな残酷なことをできたのか。調べるほどわからなくなる正解のない難問に、ヒロカは等身大の感性で挑んでいきます。この世界の理想は、**長崎ちゃんポン**のように色々な具材が混ざり合い調和すること。そんなヒロカのユーモラスな感性にどこか救われます。

昭和十六年の夏の終わりに始まるこの物語は、国民学校の三年生「ちいやん」こと笑生子が目にした**過酷な戦争の時代の活きた記憶**です。仲の良い家族と暮らし、大らかで豊かな感性を育まれてきた少女は、傷つきながらも戦禍の日々を生き抜いていきます。ただかだけども、はじけるような喜びの瞬間を見つけていく笑生子。その健気な姿を見守る読者もまた、**歎び、悲しみ、激しく心を揺さぶられる**はずです。戦争は嫌だと、二度と繰り返してはならないと魂に刻み込まれる名作。記録からは伝わらない、非情だけれど愛すべきこの世界を描く圧巻の物語です。



## 花あかりともして

作者 服部千春  
出版社 出版ワークス  
発行 2017年7月  
ISBN 978-4907108083



review



出版社さんの  
紹介ページも  
素敵です。

現代の小学五年生の少女、**花**は夢の中で、おばあちゃんの記憶とシンクロして過去の世界を疑似体験します。おばあちゃんの少女時代にあった戦争。徴兵され出兵したお父さんの帰りを待ちわびる家族は、ユウガオの花を咲かせ、**その花あかりでお父さんを出迎えたい**と思うものの、それは国に条例で禁じられた行為とされてしまいました。花を育てることや、動物を飼うことは、**戦争には役に立たない**と切り捨てられていったのです。家族を思う大切な気持ちよりも、国が大事とされた時代。現代の子どもの過去を知り、その過酷な時代を生きて抜いてきた祖母から自分へと命が連環していることを体感する物語です。



## マレスケの虹

作者 森川成美  
出版社 小峰書店  
発行 2018年10月  
ISBN 978-4338287180



review

2019年の  
児童文芸家協会賞  
受賞作です。

真珠湾攻撃から開戦した太平洋戦争を、ハワイに暮らす日系移民たちはどう受け止めたのか。敵性外国人として迫害される暮らしの中で、**アメリカ国籍を持つ日系二世たち**は、あらためて自分自身のアイデンティティを問われていきます。日系二世の少年マレスケは、志願兵となりアメリカ人として戦う兄を案じながらも、何が正しいのかを考えます。さまざまな人種が混雑するハワイという場所であち、**国のボーダーを越えたグローバルな感覚を養われた少年マレスケ**は、人間が変化し、さらに先に進んでいく未来を模索します。**現代的な感覚**で描かれる理性的で新しい戦争児童文学です。

### 紙版「ハコブネ×ブックス」夏の増刊号

2019年8月15日発行

●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト**ハコブネ×ブックス**（非営利）を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々受賞。今回の増刊号は**図書館選書センター**の「**戦争と平和**」フェアとのコラボレーションです。



Twitter  
連携して  
います。

@tomoostretch

「戦争児童文学」といえば、『**ガラスのうさぎ**』や『**ふたりのイーダ**』のような**昭和時代**に書かれた名作が思い浮かびますが、現在も新しい作品が続々と生み出されていることをご存知でしょうか。しかも、普段はエンターテインメント作品を書かれることが多い、現役の人気児童文学作家たちが、**祈りや願いを込めて**、子どもたちに戦争と平和について熱く語りかけているのです。現代の視座から戦争を見つめる物語が提示するものは、**過去を知ること**、そして**未来を考えること**です。戦争を阻止し、平和を実現するためかかった大人たちが果たせなかった難題であっても、子どもたちはいつか未来に自分たちの力で実現しなければなりません。**物語を通じて、今、バトンが託されよう**としています。豊かな表現力を持った人気児童文学作家たちが描く物語は独創的で、戦争と平和というテーマだけに留まらず、児童文学としての表現の可能性にも挑戦した魅力的な作品ばかりです。



### 翼もつ者

作者 みおちづる  
出版社 新日本出版社  
発行 2016年7月  
ISBN 978-4406060400



超未来。最終戦争後の汚染された世界を地下シエルトで生き延びた人類は、シエルト単位に国家を建設し、再び覇を競うようになっていました。戦争を終わらせるという大義のために戦争を続け、巨大な資源エネルギーをも兵器に転用しようとする人類。国による統制と圧政に屈することなく、自由を空を飛ぶことを選んだ少年ノニは、この世界を救うために一命を賭してつき進みます。現代の写し絵である未来世界を舞台に戦争の愚かさを描く新しい寓話です。



### ぼくがきみを殺すまで

作者 あさのあつこ  
出版社 朝日新聞出版  
発行 2018年3月  
ISBN 978-4022515384



隣接する二つの国、ベル・エイドとハラ。人々が往来し親交もあつた両国の利害をめぐる対立は激化していきま。家族を守るため武官学校に進み兵士となったベル・エイドの少年エルシアは、戦場で怪我を負い敵の捕虜となりま。明日、処刑されるエルシアの心に浮かぶのは、かつて親友だったハラ少年フレッドのこと。人命も友情も人間としての尊厳も奪う戦争。架空の国を舞台に国家の横暴と戦争の不合理を描く物語です。



### トンネルの森 1945

作者 角野栄子  
出版社 KADOKAWA  
発行 2015年7月  
ISBN 978-4040677132



空襲を避けて東京から田舎の村に疎開してきた十歳の少女イコ。学校に通うために通る森の中のトンネルには、脱走兵が隠れ住んでいるという噂もあり気が気ではありません。弱虫な自分を乗り越えようと努力を続けるイコに、東京の惨状が伝わってきます。東京で空襲に遭い行方不明になったお父さんを、義理のお母さんと懸命に探すイコ。いつか暗い森を駆け抜けるように戦争の向こう側にたどり着けるのか。暗い時代を吹き飛ばすイコの躍動感が魅力的です。



### すべては平和のために

作者 濱野京子  
出版社 新日本出版社  
発行 2016年5月  
ISBN 978-4406060295



近未来。国際法で定義される「戦争」がなくなつた世界でも、テロや紛争は後をたたくず、悲惨な戦闘と殺戮は繰り返されています。紛争の調停を国連ではなく専門の民間企業が委託されている時代。ユネスコのスピーチフェスティバルで国際貢献への希望を語り脚光を浴びた十七歳の和菜に舞い込んだ紛争調停の依頼を、彼女は覚悟を決め引き受けます。一筋縄ではいかない大人たちの思惑に翻弄されながら、真の平和を実現するために和菜が放つ正義の一手にご注目ください。



### 光のうつしえ

廣島 ヒロシマ 広島

作者 朽木祥  
出版社 講談社  
発行 2013年10月  
ISBN 978-4062183734



あの戦争から二十六年。秋の文化祭に向けて「あのころのヒロシマと広島」をテーマに作品を作ろうとする美術部の中学生たち。原爆投下を体験した大人たちに話を聞く彼らは、七万人もの人が一瞬にして消えたという事実と、その後の長い時間をずっと悲しみを抱えながら人が生きてきたことに衝撃を受けます。人は人の大きな悲しみはどうしたか寄り添えるのか。失われたものを慈しむ、心に刻み、忘れないことを子どもたちが知る、人が人を悼む気持ちの結晶のような物語です。



### あの日とおなじ空

作者 安田夏菜  
出版社 文研出版  
発行 2014年5月  
ISBN 978-4580822238



夏休みに、ひいおばあちゃんに住む沖繩を訪ねた小学生のナオキとダイキの兄弟。昔の沖繩の話をするひいおばあちゃんが、戦争の頃を思い出して沈黙してしまつたことに驚かされます。ひいおばあちゃんに何があつたのか。ダイキは不思議な体験を通じて過去の世界をのぞき込み、かつて沖繩で起きた戦争の惨劇を目にします。戦争に追い詰められ、思いやりや優しさを失っていく人間。戦争の時代を生きたひいおばあちゃんが繋いでくれた命の意味をダイキが知る物語です。

### ●おまけ



飛べよ、トミー  
飯田栄彦  
講談社 (1975年)



絵にかくとへんな家  
さとうまきこ  
あかね書房 (1973年)



さらばハイウェイ  
砂田弘  
偕成社 (1970年)

1970年代の児童文学作品には、ベトナム戦争の影響が色濃くあらわれています。この時代、平和が失われることへの危険を感じ、アメリカ兵が戦場に送られること、人道的に反対して過激なアクションを起す大人たちも描かれました。児童文学からそんな時代の空気を感ずることが出来ます。



### ピース・ヴィレッジ

作者 岩瀬成子  
出版社 偕成社  
発行 2011年3月  
ISBN 978-4036430901



米軍基地のある町に住む小学五年生の楓。米軍兵相手のスナックを営む両親に育てられ、基地のある暮らしがあたりまえだった楓も、この頃少し気づき始めていました。世界で起きている戦争に対する不安感や恐怖。そして自分が住む町が、日本で戦争に一番近い場所だということも。米兵にピラを配り平和運動を続ける大人もいれば、基地の恩恵によって暮らしている自分たちもいる。一つの正しい答えを求めることが難しい状況の中で、楓は戦争と平和について考えていきます。